議　　事　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名</td><td>釧路市障がい者自立支援協議会 第2回相談支援部会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局</td><td>釧路市障がい福祉課
釧路市障がい者基幹相談支援センター</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td>令和3年8月6日（金）15：00～16：40</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td>釧路市防災庁舎５階会議室A.B</td></tr>
<tr><td rowspan="4">出席者</td><td>委　員</td><td>出席 19名、欠席4名

西副部会長（つばさ）、山本副部会長（Kcマヴィ）、高岡（ハート釧路）、
平間（あいけあ）、高野・葛野（のおと）、長田（あ～かす）
千葉・武田（サハス）、渡邊（りりーふ）、森山（にじ）、西川（リール）
岸・稲澤（ソラ）、櫛部（くらしごと）
森島・柿沼・大塚・吉川（自立センター・議事録担当）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>傍聴者</td><td>なし</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td>出席　6名
石川課長補佐・田仲主査・豊巻主事・若園主事（障がい福祉課）、
竹内・近藤（基幹相談支援センター）</td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td>1.　挨 拶
相談支援部会　副部会長　西　康介
2. 議 事
（１）事例検討
1.福祉サービスが定着しない男性の支援について
（地域支援センターつばさ）
2.親子で障がいを抱えている世帯の支援について
（相談支援事業所KCマヴィ）
（２）その他
1.生活困窮に関する現状と報告について（くらしごと）
2.相談支援事業所への訪問について（基幹相談支援センター）
3.新たな相談支援体制の説明会について（障がい福祉課）

3.　閉　会</td></tr>
</table>

議　事　内　容

1.挨　拶

釧路市障がい者自立支援協議会　相談支援部会副部会長　西　康介　氏

2.議　事

事務局より

前回の相談支援部会で西副部会長と山本副部会長から発表のあった事例について、2 グループに分かれて検討を行なう。

1 グループ

・高岡、葛野（書記）、千葉（発表）、森山、岸（司会）、田仲、若園、柿沼、吉川

2 グループ

・平間、高野（書記）、長田（司会）、武田、渡邊（発表）、西川、稲澤、櫛部、豊巻、森島、大塚

スーパーバイズ

・石川

ファシリテーター

・竹内（1 グループ）、近藤（2 グループ）

（1）事例検討

1 グループ：福祉サービスが定着しない男性の支援について（地域支援センターつばさ）

～基本情報～

・年齢、性別：58 歳、男性

・障 が い 名：うつ病

・家 族 構 成：妻、長男、長女

・障がい特性：障がい特性の受容が低い。感情コントロールが難しい。
　　声を荒げる、手を出してしまう。

・支 援 経 過：市内の就労継続支援Ａ型事業所を転々としている。

1 グループの検討議題

・就労可能な社会資源について

・対象者のような方への相談支援として他にどんな方法があるのか。

1 グループの発表

「就労可能な社会資源について」に対する意見

・働くことについて振り返りを行う。

・失敗体験のみが残る傾向にあるため方向性の修正が必要。

・障がい者雇用枠での一般就労。

議　事　内　容

「対象者のような方への相談支援として他にどんな方法があるのか」に対する意見

・市内のＡ型事業所の利用を続け、他に利用出来る社会資源が無くなった場合、他市町村の社会資源を利用する事も選択肢の一つではないか。
・本人の話をもっと聞き、ストレングスを見つけていく。
・事例提供者の思いを相手に伝える。
・相談を行う際のルールを決める。
・相談支援事業所のみで抱え込まず、法人としても事例提供者のサポートを行なう。

２グループ：親子で障がいを抱えている世帯の支援について（相談支援事業所　ＫＣマヴィ）

～基本情報～

・年齢、性別：33 歳、女性
・障 が い 名：アスペルガー症候群
・家 族 構 成：子ども（長女、次女、長男）の 4 人家族。子ども達も障がいを抱えている。
・本人の強み：めげない、曲げない、明るい、強さがある。
・支 援 経 過：当初は長男への支援のため支援開始したが、家庭環境の問題から母親への支援に切り替わる。ネグレクト状態にある。

２グループの検討議題

・本事例の様な同様の案件に対して、他の相談支援専門員はどの様な支援を行うか、アドバイスが欲しい。

２グループの発表

・母としてはサービスを勝手にあてがわれたという認識が強く、母のニーズを拾いきれていないために支援員の意向とマッチングしていない現状がある。
・物が多い部屋についてはゴミではなく、必要な物という認識のため捨てられず増えていく。
・母と子の相談支援専門員が同じなので分けたほうがより良いサービスに繋がるのではないか。
・サービスの活用が不十分なため、対応を考えていく。

スーパーバイズ総評

石川課長補佐より

・事例提供者の 2 人も悩みながら、ケース支援を進めているが今回のグループワークを通して気づきがあったのではないか
・また、珍しいケースではないため、今後のために有意義な時間となった。
・今後も障がいを持つ大人、子どもをどのように支援していくか協力していきたい。

議　事　内　容

事例提供者総評

〇西副部会長より

・一人では思いつかない意見が出たことで改めて考えさせられる機会になった。

・自分の悩みが共有できたことも良い機会になった。

〇山本副部会長より

・提供事例の様なケースは釧路市内に多くいるが、支援にうまく繋がらないケースがあること、本人中心ではないところからの相談が始まったことが気になっていたが、振り返ることで今後の参考となり良い機会になった。

・また相談従事者研修でも同様の課題が出ており、今回の件と合わせ、今後の本人との関わり方の支援について取り組んでいきたい。

(2) その他

〇生活支援センターくらしごとより

～生活困窮の支援におけるコロナパンデミックの数値について～

・特例貸付という生活福祉資金を社会福祉協議会が行なっているが、7月時点で釧路管内で7億、釧路市で5.5億、全道で320億、全国では1兆1800億円のお金が10年以上税金で貸付られている。返済ができるのか過去の例を見るとほとんど焼け焦げているため、本当に正しい制度なのか疑問に思う。

・くらしごとでは住居確保給付金という住宅費を現物で市役所が給付する受付を行なっているが圧倒的に末広の飲食業（70代80代の高齢者など）の人が受けている。だいたい1年借りて3千万から5千万円かかり救われている人はいるが制度として合っているのか疑問に思う。

・釧路の自殺者は昨年は41名。一昨年の1.5倍。今年は6月までで18名。今年の特徴は20代が2名、10代が2名と若い方がいる。様々な原因がある。

・昨年、相談で救えたかもしれないのは2名のホームレス。
この2名も自分からくらしごとへ助けを求めてきたから助かっているのが釧路の実態。

・全国的に社会福祉協議会が疲弊。主な理由として、支援員が身の危険に晒される、業務過剰によるストレス過多、制度の有効性の疑問、離職者など様々である。

・その他、利用者像が変化していて、釧路ではないが首都圏においては特定の業種で外国人が増えていたり、男性と女性、正規と非正規など二極化の問題もあるので、パンデミック後に機関依存の懸念も考えられる。

・食のネットワークという任意団体を立ち上げ、市内、管内のこども食堂、地域食堂、フードトラックを行なっている方でいただいた物を回そうと考えているので食料で困っている方の連絡を待っている。

・ＪＡ釧路からは牛乳券をいただいている。

議　事　内　容

〇基幹相談支援センターより

・令和３年度から４年度にかけて、各相談支援事業所の状況把握や社会資源を初めとした情報提供等を目的として事業所の訪問を予定している。

・訪問に伴い、グーグルフォームを利用した事前アンケート調査を実施予定。

・アンケートの内容は計画の件数の状況、事業所の人員体制、基幹センターで行なう研修内容、事業所の抱えている課題、知りたい情報を想定。

・訪問の順番を含め、改めて周知を行う。

〇障がい福祉課より

・社会福祉法人　音別憩いの郷による基幹相談支援センターの受託が令和４年度で終了となる。

・釧路市では、令和５年度以降の基幹相談支援センターについて、たたき台を作成中である。

・たたき台を基に、自立支援協議会運営会や各社会福祉法人に意見を聴取したいと考えている。

・相談支援事業所からも意見を聴取したいため、８月下旬に臨時の相談支援部会を開催したいと考えている。

・議題としては、今後の相談支援体制と、地域生活支援拠点等について

3.閉　会

以上